舞鶴小学校 学校だより	友の手を引く	２０１９年度 ３ 月１９ 日 文 責 校長　渡邉　豪

学校評価（自己評価）の結果をお知らせします

本校では，学校教育法４２条に基づき，「学校教育目標」１項目，「学習指導」７項目，「生活指導」３項目，「特別支援教育」１項目，「保健体育」２項目，「危機管理」２項目，「地域・保護者連携」２項目の合計１８項目について，教職員による自己評価を実施しました。そして同法施行規則６６条に基づき，自己評価の結果について公表します。

分　野	No.	自　己　評　価　項　目
学校教育目標	1	学校教育目標の具現化に向けて，共通理解をもって教育実践に取り組んでいる。
学 習 指 導	2	確かな学力の育成･言語活動の充実について職員間で共通認識を持ち取り組んでいる。
	3	関心を引き起こし，興味を意欲に変える教材や学習方法を工夫し，学ぶ楽しさを体験するようにしている。
	4	「主体的・対話的で深い学び(特に学び合いの学習)」の指導に努めている。
	5	総合的な学習の時間と各教科等，教科横断的な視点で関連させた学習を取り入れている。
	6	体験的，問題解決的な学習，地域の人的・物的資源を活用することを通して自己学習力の育成を図っている。
	7	有効な読書活動の推進が確保されている。
	8	道徳性を養う指導の充実と生き方指導の充実を図っている。
生 活 指 導	9	いじめ，不登校などの問題に対し，自他の個性を尊重し合う心や，好ましい人間関係の育成ができるようにしている。
	10	あいさつ運動を推進している。
	11	「無言清掃」を中心に，適切で・よりよい習慣化を図る清掃指導を行っている。
特別支援	12	特支コーディネーターを中核として特支校内委員会を開催し，情報交換と指導の一体化を図っている。
保健体育	13	保健指導や保健学習を継続して行い，病気やけがの防止に努めている。
	14	体育や「一校一実践運動」を通してたくましい体づくりを推進している。
危機管理	15	危機管理については学校だけで対応するのではなく，保護者･地域・関係機関と連携して対応している。
	16	「自分の身は自分で守る」という意識を定着させ，交通安全･不審者対応の安全指導を徹底している。
連　　携	17	保護者や地域と連携した教育活動を推進している。
	18	必要な情報発信をするとともに，地域や保護者からの連絡や相談に適切に対応している。

【全体を通して】

全ての項目で肯定的評価が９０％を超え，１８項目中１４項目は，肯定的評価が１００％となっています。このことから，全教職員が共通理解のもと，学校運営にあたっていると考えられます。一方で，生活指導に関する項目など，否定的評価が比較的高い項目も見られます。また学習指導や生活指導に関する項目の中には，昨年度に比べてＡ評価の割合が低下している項目も見られます。

以下３項目について，結果を踏まえた考察と今後の方向性及び学校評議員会・学校関係者会議におけるご意見・ご感想を掲載します。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現による学力向上について】

・甲府スタイル，山梨スタンダードに則り，課題提示，見通し，自力解決，学び合い，振り返りといった問題解決型の学習が実施されています。ただ「深い学び」を実現するには，さらに実践を積み重ねる必要があります。教育公務員特例法にもあるように，絶えず研究と修養に努め，児童とともに成長する教員集団づくりを行います。
・宿題と自主学習のバランスについては，発達段階に応じて，基礎基本の定着と主体的な学習習慣の育成の両面から考えて，対応していきます。

【学校評議員会・学校関係者評価会議におけるご意見・ご感想】
○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善がよくできている。先進校とも遜色ない実践が行われている。
○教員の得意分野を活かした学習指導等の取組がなされていて，子どもの意欲が高まり，力もついている。
○自主学習をしていくと，感想を書いてくれたり，シールを貼ってくれたりするなど丁寧かつ熱心な指 導のおかげで，自主学習に取り組むようになった。
□自主学習は低学年からの積み上げが大切である。多くの子どもが取り組めるように，発達段階に応じた系統的な学習のやり方を具体的に示してほしい。

【あいさつについて】

・あいさつの推進については，全教職員が同一基準，同一歩調で指導を積み重ねるとともに，児童の主体的な取組を促し，改善を図っていきます。

【学校評議員会・学校関係者評価会議におけるご意見・ご感想】
○性格にもよるので，言葉に出して言わなくても，気持ちがあれば十分ではないか。心の中で思っていても，素直に言えないのも理解できる。
□できている子とできていない子がいる。登校班長の雰囲気によるのかもしれない。大人が「あいさつ」を促すような声かけをすることが大切。そうすることで，子どもたちの状況を把握することにもつながる。

【情報発信について】

・ＨＰについては，一度配信すると世界中の不特定多数の人が閲覧することができ，拡散する恐れがあります。個人情報保護・リスクマネジメントの観点から，配信回数，個人が特定できないようにする　ための掲載写真数・写真のクローズアップレベルについては，今年度をスタンダードとしていきます。

○ＨＰ配信すると，世界中の不特定多数が閲覧することができ，拡散してしまう恐れがある。そのリスクを考えると，写真のクローズアップなどはしない方がよい。個人は特定できない方がよい。
□リスクマネジメントは理解できるが，できるだけ子どもの様子を見たい。パスワード設定することで，限定された人しか見られない形式にできないものか。
□リスクマネジメントについて，広報し，周知することが大切である。